

## 文化資源マネージャー養成プログラム



## Graduate Program in Cultural Resource Management

本プログラムでは、世界各国・各地域で継承されてきた文化資源の将来に向けての意義と有用性を探求し、人類全体に向けたその活用策を案出・実践する「ローカルな文化資源のグローバルな活用を可能にする資源発掘・管理・活用策提案能力を身に着けた人材」を養成することを目的とする。

## 【学位記の内容】

修了者には研究科が授ける博士号(文学)あるいは(学術)に「文化資源マネージャー養成プログラム」の修了を付記

## 文化資源の可能性を追求

本プログラムは、人類文化の多様性を尊重しつつ、世界各国・各地域で継承されてきた文化資源の将来に向けての意義と有用性を探求し、人類全体に向けたその活用策を案出し実践する人材、すなわちローカルな文化資源のグローバルな活用を可能にする資源発掘・管理・活用策提案能力を身につけた「文化資源マネージャー」を5年一貫の大学院教育で養成することを目的としています。

文化資源学とは、経済開発やグローバル化の進展で変化を余儀なくされている世界各国・各地の「文化資源」の保護・継承・活用をとおし、偏狭なナショナリズムの発生や文化資源をめぐる経済的利益の収奪等の諸問題の解決への貢献を目指す実践的な学問領域です。

この新学問分野に精通し、実践できる人材を本プログラムでは「文化資源マネージャー」と定義し、マネジメント能力を有するリーダーの養成・輩出を目指します。

## 多文化共生に向けて

同期入学の日本人学生4名および中国・タイ・インドネシア・ベトナムからの留学生4名のチームで、国内外での現地研修や現地調査、国際ワークショップを行うのが本プログラムの特徴です。平日頃からの多文化環境下で、多文化共生社会の実現に向けた能力を涵養します。

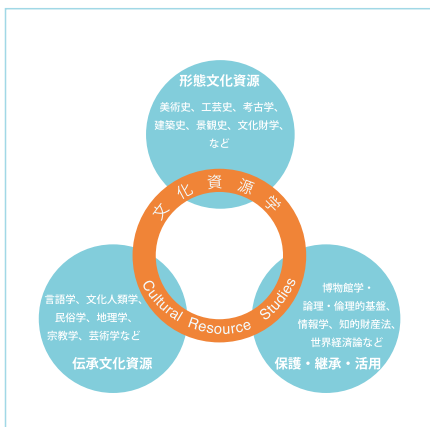
1年次は文化資源学の基礎的な学修、文化資源の継承・活用が実践されている現場での調査実習を通じてチームビルディングをおこないます。2年次は1年次よりも長期間、研修をおこない、議論を通してローカルな文化資源を如何に活用していくのかを考えます。3年次は4年次の本格的な調査に向けた調査地を絞り込んでいきます。同時に文化資源の活用に関する国際ワークショップの企画・開催を通じたチームでの活動を継続します。4年次は現場にて文化資源の管理・活用方策の提言に向けた長期調査をおこないます。国際的チームでの討論やワークショップも併行しておこない



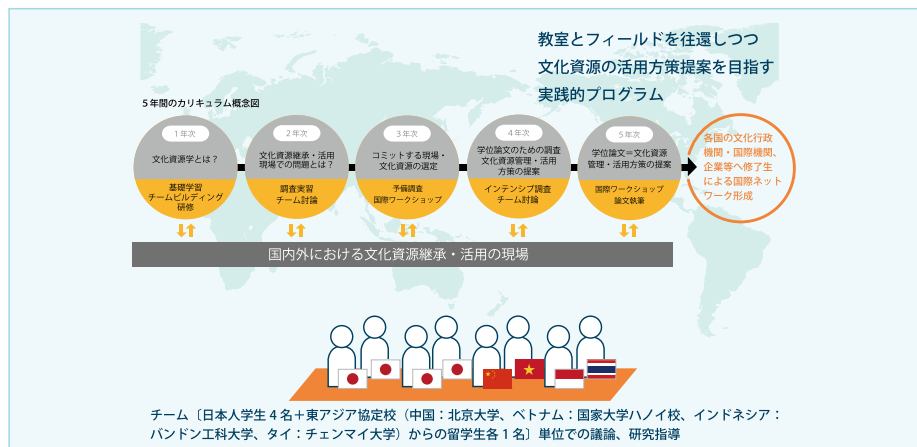
フィールドワーク実習(羽咋市永光寺にて)

す。5年次は国際ワークショップの場で4年次の調査をふまえた文化資源管理・活用方策を発表し、学位論文を執筆します。

修了後に期待される活躍の場は、文化行政を管轄する中央政府や地方政府、ユネスコを始めとする国際文化機関、博物館、伝統資源を活用する民間企業などです。近い将来、本プログラム修了生による文化資源マネジメントの国際ネットワークが形成され、多文化共生社会の礎となるのが本プログラムの夢です。



文化に係る多彩な専門分野の領域を横断するアプローチが文化資源学の特徴



同期入学の国際的チーム単位での活動、指導による国際舞台での協調性・相互理解力・リーダーシップの涵養

## DATA

【学生募集人数】8名/年

【留学生・社会人の割合】58%・5%

【参画研究科・専攻等】1研究科・5専攻

(人間社会環境研究科)博士前期課程人文学、法学・政治学、経済学、地域創造学、博士後期課程人間社会環境学

【プログラムのための新研究科・新専攻の設置の有無】平成30年金沢大学・北陸先端科学技術大学院大学先進融合学術共同大学院の設置(予定)

【国内外連携・協力大学等】4大学、4機関

北京大学考古文博学院/チェンマイ大学大学院社会科学研究所/バンドン工科大学芸術・デザイン学部/ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学/セインズベリー日本芸術研究所/ホンジュラス国立人類学歴史学研究所/東京文化財研究所/国立民族学博物館

【連携・協力企業等】

地方公共団体2、機関3、企業/NPO等5  
アジア太平洋無形文化遺産研究センター(ユネスコ・カテゴリー2センター)/金沢市/輪島市/石川県埋蔵文化財センター/小松市埋蔵文化財センター/桐本木工・輪島キリモト/まるやま組/ヤマト醤油味噌/農家民宿NPO:春蘭の里実行委員会/金沢グッドウィルガイドネットワーク

お問い合わせ先: 076-264-5601 ホームページ: <http://crm.hs.kanazawa-u.ac.jp/>

# 未来共生イノベーター博士課程プログラム



## Doctoral Program for Multicultural Innovation

文系・理系の研究科から選抜された学生が主専攻で専門的知見を深めると同時に、他者に対する深い理解を伴う敬意 (respect) にもとづき、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できる知識・技能・態度・行動力を兼ね備えた研究者・実践家の育成を目指します。

### 【学位記の内容】

修了者には自専攻が授ける博士号に「未来共生イノベーター博士課程プログラム」の修了を付記

### 新しい多文化共生社会を創造する 未来共生イノベーターの育成

現代社会では、グローバリゼーションの名のもとに、国境の壁を超えて、人・モノ・カネ・情報が絶え間なく、しかも迅速かつ大量に行き来しています。そのなかで重要な社会的要請とされているものが「多文化共生社会の実現」です。本プログラムでは、本学の文系・理系の研究科から選抜された学生が主専攻で専門的知見を深めると同時に、他者に対する深い理解を伴う敬意 (respect) にもとづき、「多様で異なる背景や属性を有する人々が互いを高め合い、共通の未来に向けた斬新な共生モデルを具体的に創案・実施できる知識・技能・態度・行動力を兼ね備えた研究者・実践家」たる「未来共生イノベーター」の育成を目指します。

本プログラムを修了した者は、国内外のさまざまな場所でトップリーダーとしての俯瞰的・独創的な立場から「未来共生」を実践する役割が期待されます。

### 特色としての プラクティカルワーク

「未来共生イノベーター」育成のために、「多言語リテラシー」「フィールドリテラシー」「グローバルリテラシー」「調査リテラシー」



ハイチのインターン先の学校において、家庭訪問に従事する履修生（「海外インターンシップ」）

「政策リテラシー」「コミュニケーションリテラシー」の6つのリテラシーからなる「多文化コンピテンシー」を高度なレベルで養うことが重要だと考えています。

カリキュラムの骨格となるのが「コースワーク」と「リサーチワーク」です。「コースワーク」には、参加型学習などを組み込んだ多様な科目群で成り立つ多彩な「アカデミックワーク」と、本プログラムの最大の特徴である大学外のさまざまなフィールド・実践の現場において共生をめぐる諸問題を体験的に学ぶ「プラクティカルワーク」があります。

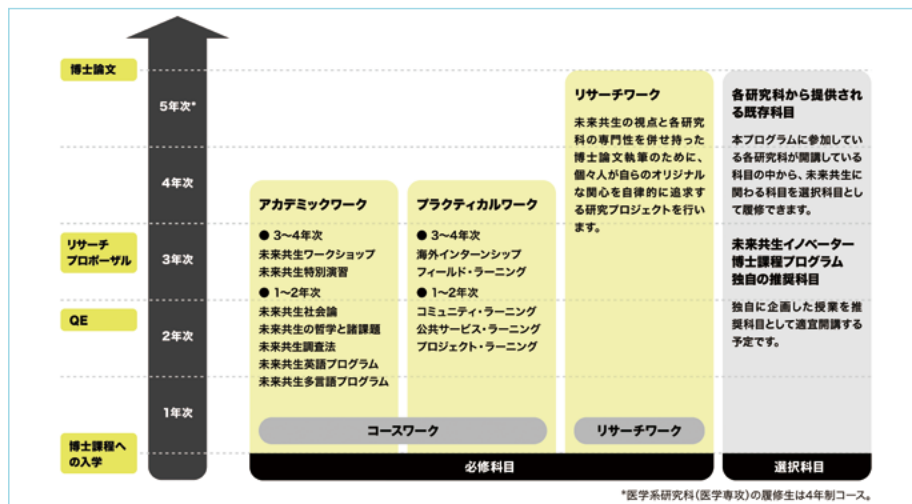
「プラクティカルワーク」では、東日本震災の被災地でのフィールドワークを行う「コミュニティ・ラーニング」(1年次)、学校、病院、自治体などの現場で実際に社会参加活動に従事する「公共サービス・ラーニング」(1年次)、現場の人々と共同でプロジェクトを立案・実施する「プロジェクト・ラーニング」(2年次)、グローバルな



岩手県九戸郡野田村において地域活動に取り組んでいます（「コミュニティ・ラーニング」）

諸課題に実地で取り組む「海外インターンシップ」(3年次)など、従来の大学院教育の枠を超えるユニークな科目群を提供します。また、「リサーチワーク」においては、多領域における学内教員の指導を受けられるだけでなく、多彩な学外プログラム担当者のアドバイスを仰ぐことができます。

### 5年間のカリキュラム概念図



多彩なアカデミックワークとプラクティカルワークで「未来共生イノベーター」の育成をサポートします

お問い合わせ先: 06-6850-6926 ホームページ: <http://www.respect.osaka-u.ac.jp/>

### DATA

- 【学生募集人数】15名/年
- 【留学生・社会人の割合】18%・13%
- 【参画研究科・専攻等】8研究科・17専攻
- 〈文学研究科〉  
文化表現論、文化形態論
- 〈人間科学研究科〉  
人間科学、グローバル人間学
- 〈法学研究科〉  
法学・政治学

- 〈経済学研究科〉  
経済学、政策、経営学系
- 〈医学系研究科〉医学、保健学
- 〈工学研究科〉  
地球総合工学、ビジネスエンジニアリング
- 〈言語文化研究科〉  
言語文化、言語社会、日本語・日本文化
- 〈国際公共政策研究科〉  
国際公共政策、比較公共政策

- 【国内外連携・協力大学等】4大学  
大阪市立大学/グローニンゲン大学(オランダ)/ガジャ・マダ大学(インドネシア)/コッパベルト大学(ザンビア)
- 【連携・協力企業等】法人3、企業1、行政機関1  
NHK/大阪府教育委員会/日本国際連合協会/関西経済連合会/アクティブユニット





# グローバル・リソース・マネジメント

## Advanced Doctoral Program in Global Resource Management

今日、最も困難な状況にある国から新興国までを対象に、現地のエネルギーを肌で感じ、現地の人々の困難に寄り添い、人々とともに切磋琢磨し、その中で得た知見と経験を、日本そして世界の発展へとつなげる先導者の養成を目指します。

### 【学位記の内容】

同志社大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」の修了を付記

### 多文化共生社会の課題群を解決に導くグローバル・リーダー

世界各地で起こっている民族や宗教間の衝突の背景には、資源やインフラの不均衡が原因となっているケースが多々あります。本プログラムは、世界資源をいかに適切かつ公平に管理・運用し、社会の発展のためにインフラを構築できるかという視点から多文化共生の可能性を追求します。

新興国や最困難国において、人文・社会科学のみ、あるいは理工学のみ知識をもつ人材に出来ることは限られています。本プログラムでは、人間生活の基盤である「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と、地球規模の現代的課題に関わる「人文・社会科学」を融合した「グローバル・リソース・マネジメント」という新しい文理融合の学際領域を学びます。

多文化共生社会の実現に向けて本プログラムが養成しようとするグローバル・リーダーとは、過酷な状況にある人々と同じ目線に立ち、ともに困難を打開する知恵を育み、発展への道を歩もうとする志を持つ人材です。

履修生は自治体や国際機関などで実習を通して実地的に俯瞰力と実践力を養います。9つの研究科の教員が、世界中に広がるネットワークを利用し履修生をバックアップします。



宮古島におけるオンサイト実習では離島におけるインフラを学びます(写真は浄水施設)

### 文系の学生が電気を作る 理系の学生が多宗教を考える

文理融合教育の実践によって異分野への理解力を高めます。たとえば、文系の学生は発電機を組み立てながら基本的な電気配線や修理技能を習得します。理系の学生は新興国のフィールドワークで、宗教間抗争や多民族共生の歴史を学び、困窮者支援のために企業やNGOが行っている社会奉仕活動に参加します。

また、文理の学生、教員が一同に会し、同じ課題を考察し、意見を交える場も設けています。広い視野を持ち柔軟に発想する力を養うことがねらいです。

### ■プログラム修了生の声

技術が加速的に進化し、世界情勢も刻々と変化する現代、一見自身の専門とは無関係のように思われる分野にも関心を持ち、視野を広げることが必要です。

GRMでは、さまざまな国籍や専門分野の

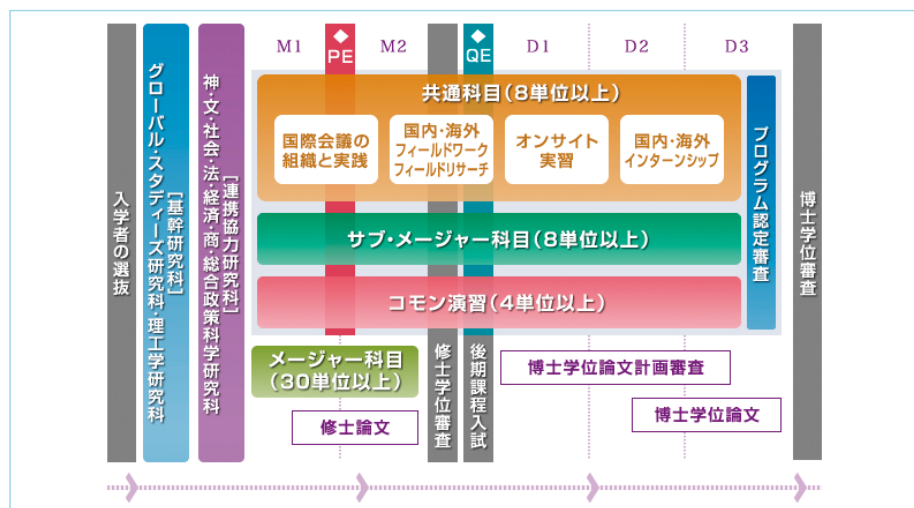


文・理の学生が共修するコモン演習では、文理の垣根を越え活発な議論が交わされます

学生が文理融合の課題に取り組むと同時にグローバル・リーダーとしての資質を身につけるべく互いに日々切磋琢磨しています。

また、GRMは就職に関してまでサポート体制が整っていて、さまざまなアドバイスを受けることができます。

私はグローバルに事業展開している企業に就職することができましたが、それはインターンシップで、GRMでの学び、培われた力が評価されたからだと思います。



実践知をもとに多文化共生社会を実現する人材を育てる【博士前期・後期課程5年間の教育プログラム】

### DATA

【学生募集人数】15名/年

【留学生・社会人の割合】54%・6%

【参画研究科・専攻等】9研究科16専攻

〈グローバル・スタディーズ研究科〉グローバル・スタディーズ

〈理工学研究科〉情報工学、電気電子工学、機械工学、応用化学、数理環境科学

〈神学研究科〉神学

〈文学研究科〉哲学

〈社会学研究科〉社会福祉学、産業関係学

〈法学研究科〉公法学

〈経済学研究科〉経済政策、理論経済学、応用経済学

〈商学研究科〉商学

〈総合政策科学研究科〉総合政策科学

【国内外連携・協力大学等】11大学

ファーティヒ大学／キルギス民族大学／フィリピン大学／テヘラン大学／ハサヌディン大学／中東工科大学／フランス社会科学高等研究院／エコール・セントラル／ハノイ工科大学／キングモンクット工科大学／ザンビア大学

【連携・協力企業等】

企業3、大学共同利用機関法人1、地方公共団体1  
三菱総合研究所海外事業研究センター／人間文化研究機構総合地球環境学研究所／堀場製作所／日新電機／宮古島市

お問い合わせ先：075-251-3259 ホームページ：<http://grm.doshisha.ac.jp/>

# 多文化共生・統合人間学プログラム



The University of Tokyo

## Integrated Human Sciences Program for Cultural Diversity

本プログラムは、学際的・国際的領域としての統合人間学を修め、地球市民として多文化共生社会実現のための豊かな専門性とグローバルな教養を備え、創造的・具体的に実践する次世代トップリーダーを養成することを目指します。

### 【学位記の内容】

学位記に「多文化共生・統合人間学プログラム」の修了を付記

### 多文化共生社会の実現のために、いま、新しい教養を

急速なグローバル化の進展により、多文化間のコンフリクトがいたるところで噴出しています。コンフリクトには実に多様な現れがあり、それぞれが、わたしたちが取り組むべき課題を形成しています。そして、コンフリクトがあるところには共生の理想が宿り、多文化共生社会の実現に向けた希望が生まれます。

こうしたグローバル化社会における多元的共生の諸課題を解決するための学知、それが統合人間学です。既存のさまざまな人間をめぐる学を統合するという意味における統合人間学の根幹には、新たな教養・リベラルアーツという理念があります。本プログラムが提示する教養は、これまでの受け身の教養ではなく、グローバル化した現代世界を理解し、その中で活躍できる人材に求められる、「攻める」教養、すなわち創造・発信・実践へと直結する教養です。高度な専門性を備えうえて、さらに広い視座を獲得し、それらに基づく洞察力と統合力をもって協働し、共に新たな課題を発見し、新たな価値を創造・発信・実践していく学知です。



オーストラリア国立大学 (ANU) アジア太平洋研究科・文化歴史言語学科との合同ワークショップ

このような教育目標に基づき、本プログラムは、学際的・国際的領域としての統合人間学を修め、地球市民として多文化共生社会実現のための豊かな専門性とグローバルな教養を備え、創造的・具体的に実践する次世代トップリーダーを養成することを目指します。

### 共生のための統合人間学のテーマ群

多文化共生の課題にチャレンジするために、本プログラムでは、統合人間学が扱うべき課題を、概念的な枠組みで、6つのテーマとして設定しました。価値・感性、格差・人権、移動・境界、メディア・情報、生命・環境、科学技術・社会の6つです。それぞれはどれも協働型の知見を必須とする複合領域であり、多様なディシプリン間の交渉によって、最先端の理論を生み出



越境する情報とメディアに関する講演会  
—「T.K生」の時代と「今」を語る

しうるテーマ群です。さらに、これらテーマ群により明快な具体性を与えるために、5つの地域的枠組みを交差させて考えていきます。テーマ的課題を現実即して把握し、解決に向けた提案・実践へと直結させるために、必須となる枠組みです。

### コースワークの内容

修士学生の授業履修 修了に必要な14単位のイメージ	博士学生の授業履修 修了に必要な9単位のイメージ	修士から進学する 博士学生の授業履修 修了に必要な9単位のイメージ
<b>プロジェクトでの資格試験</b> 2単位 学生自身のキャリアパスへの状況を確認し、次年度の課題を発見する。	<b>産官学インターン・資格試験</b> 1単位 産業や官の世界での研修を通してキャリアパスを構築する。	<b>産官学インターン・資格試験</b> 1単位 産業や官の世界での研修を通してキャリアパスを構築する。
<b>原則としてプロジェクトでの実験実習</b> 2単位 プログラム内のユニットが連携して提供する教育プロジェクトの実習を通して、現場での問題を把握する。	<b>学内インターン・資格試験</b> 1単位 他分野での経験を通して俯瞰的な視点を獲得する。	<b>学内インターン・資格試験</b> 1単位 他分野での経験を通して俯瞰的な視点を獲得する。
<b>所属ユニットの演習</b> 2単位 プログラム内のユニットの演習によって基礎的な知識を習得する。	<b>短期留学・資格試験</b> 1単位 国際的な環境で教育を受ける。	<b>短期留学・資格試験</b> 1単位 国際的な環境で教育を受ける。
<b>多文化共生概論 リテラシー・英語・外国語</b> 8単位	<b>多文化共生概論 演習・実験実習</b> 6単位	<b>演習・実験実習</b> 6単位

修士課程からの学生は5年間で、博士課程からの学生は3年間で、多文化共生概論などの基礎科目や各種インターン科目を履修

### DATA

お問い合わせ先: 03-5454-6415 ホームページ: <http://ihs.c.u-tokyo.ac.jp/ja/>

【学生募集人数】20名(修士課程/春15名、秋5名)

【留学生・社会人の割合】30%・7%

【参画研究科・専攻等】2研究科・6専攻

〈総合文化研究科〉超域文化科学専攻、言語情報科学専攻、地域文化研究専攻、国際社会科学専攻、広域科学専攻

〈学際情報学府〉学際情報学専攻



# 「ウェルビーイング in アジア」 実現のための女性リーダー育成プログラム



Women Leaders Program to Promote Well-being in Asia

「食・健康・環境・社会システムと教育」をキーワードに、拠点大学や国際機関等との連携により、確固たる専門性と俯瞰力、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーの育成を目指します。

## 【学位記の内容】

博士号学位記に「博士課程教育リーディングプログラム（「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム）」の修了を付記

## 次世代を担う 女性リーダーを育成

持続可能な社会の発展に向け、多様な取り組みが求められる今、日本社会を活性づける鍵となるのは〈女性〉です。女性たちが、その能力や個性を十分に発揮し、活躍の場を広げることが期待されています。

一方、様々な発展段階にある多文化社会アジアでは貧困、多様な健康問題、ジェンダー格差など、解決すべき課題が山積しています。特に、女性が伝統的に貢献してきた「食・健康・環境」分野における共通課題を解決するためには、民族や国籍、宗教を超え、アジアの女性同士によるネットワークの構築と、パートナーシップの確立、深化が必要です。

本プログラムでは、こうした課題に深く関わる「食・健康・環境・社会システムと教育」をキーワードに、多様なカリキュラムを展開し、ウェルビーイング実現のために、確固たる専門性と俯瞰力、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーの育成をめざします。

国際開発学、教育発達科学、生命農学、医学（医学・保健学）の4研究科、及び農学国際教育協力研究センター、男女共同参画室により設置された研究教育支援プラットフォームのもと、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家による分野を超えた5年一貫教育



海外実地研修：  
4研究科の学生がチームを組み、調査、研究、発表を実施

を行うことで〈統合知〉の獲得と6つのコア能力①ジェンダー理解力②実践力③現場力④企画力⑤俯瞰力⑥発信力を習得します。

## 国際機関等との連携による 実践教育と組織的な支援体制

国際社会が抱える課題を解決するためには、できるだけ若い時期に異文化を体験し、異分野融合の研究課題に対する俯瞰的視野と国際性を養うことが必要です。

本プログラムでは、英語による講義・演習、5年間の実践的英語教育を実施するとともに、アジアを中心とする本学の学術交流協定校、連携大学および国連児童基金、国連人口基金、国際協力機構を始めとする国際機関・協力機関との連携により、高い専門性と明確なビジョンのもと、アジアにおけるウェルビーイング実現に向かって行動できる女性リーダーを育成します。



Cross-cultural Talk：一堂に介し、討論を重ねることにより、アジアのウェルビーイングの課題を発掘

また、キャリアパスを実現するためには、複数の段階を踏みながら障害や問題を克服、解決していく必要があることから、本プログラムでは、4研究科合同による指導教員体制に加えて、高い評価と実績を持つ本学のメンター制により、在学中だけでなく、修了後も継続して支援を行うことで、修了生のキャリアパスを確実にしていきます。



統合知を獲得する5年一貫の学位プログラムの概要。高度な専門性と多様性をキーワードにカリキュラムを展開する

## DATA

お問い合わせ先：052-788-6246 ホームページ：<http://www.well-being.leading.nagoya-u.ac.jp>

【学生募集人数】20名程度/年  
【留学生・社会人の割合】36%・46%  
【参画研究科・専攻等】4研究科・13専攻  
〈国際開発研究科〉国際開発、国際協力、国際コミュニケーション  
〈教育発達科学研究科〉教育学、心理発達科学  
〈生命農学研究科〉生物圏資源学、生物機構・機能科学、応用分子生命科学、生命技術科学  
〈医学系研究科〉総合医学、看護学、医療技術学、リハビリテーション療法学

【国内外連携・協力大学等】15大学  
フィリピン大学/ Lund大学/ カンボジア王立農業大学/ ディボネゴロ大学/ チュラロンコン大学/ カンボジア王立ブノンベン大学/ ガジャマダ大学/ シンガポール国立大学/ ラオス国立大学/ フィリピン大学ロスバニョス/ ベトナム国家大学ハノイ/ インド工科大学ボンベイ校/ ダッカ大学/ オタワ大学/ 国連大学高等研究所

【連携・協力企業等】7機関  
リテラシー/ 外務省/ JICA (国際協力機構)/ UNICEF (国連児童基金)/ UNFPA (国連人口基金)/ 世界銀行/ ADB (アジア開発銀行)

# たおやかで平和な共生社会創生プログラム

TAOYAKA Program for creating a flexible, enduring, peaceful society

南アジア及び日本の中四国地方の中山間地域等の困難な課題を抱える条件不利地域と向き合い、それぞれの地域の持つ文化と社会構造の課題への知識を深め、地域のニーズに応じた技術開発を実践し、開発された新しい技術を地域社会での実装に導くグローバルリーダーたる博士人材を育成します。

【学位記の内容】

「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」の修了を付記

## 文化・技術・社会の連鎖的發展を導く博士人材の育成

インド、ネパール、バングラデシュ等の南アジアの国々には、教育や医療といった生活基盤が十分に備わっていない村落、エネルギーや資源が安定的に供給されていない集落がまだ数多くあり、貧困や格差といった課題を抱えています。一方、成熟社会となった日本では、医療サービスを受けることが困難な限界集落、交通が不便な島嶼部・中山間地域における過疎化・高齢化が社会問題となっています。このような困難な課題を抱える「条件不利地域」と向き合い、それぞれの地域の持つ文化と社会構造の課題への知識を深め、地域へのニーズに応じた技術開発を実践し、そうして開発された新しい技術を地域社会での実装に導くグローバルリーダーたる博士人材を育成します。

## オンサイト・リバースイノベーションの実践

先端技術は日々進歩し世界に広がっています。しかし、その新技術が最も困難な問題を抱える条件不利地域にまで行き渡るには時間がかかり、先進国で開発された技術が必ずしも条件不利地域に最適な性能や機能を備えているとは限りません。条件不利



グループワークでは多国籍×多分野の学生が共通課題に取り組みます

地域では、「品質が落ちてでも安価で入手できる」、「機能が少なくとも故障しにくい」など、現地での実用に即し、その地域の生活者にとって最高の性能を開発することが求められます。多様化する文化・社会への科学技術の解は1つではなく、それぞれの文化や社会に見合った様々な技術が必要です。「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」では、困難な課題を抱える地域に寄り添い、地域ニーズから発想し、より効果的に社会を望ましい方向へと導く課題解決型の技術開発、地域文化と先端的科学技術の共創を達成するため、オンサイト・リバースイノベーションを実践します。



バングラデシュの地域住民へのインタビュー調査を実施

学生提案支援型教育カリキュラム



地域のニーズに機動的に対応できる全学横断型の教育コースとオンサイト教育による提案支援型教育を提供

DATA

- 【学生募集人数】 18名/年
- 【留学生・社会人の割合】 80%・20%
- 【参画研究科・専攻等】 7研究科・12専攻
- 〈文学研究科〉人文学専攻
- 〈総合科学研究科〉総合科学専攻
- 〈国際協力研究科〉開発科学専攻、教育文化専攻
- 〈先端物質科学研究科〉半導体集積科学専攻、量子物質科学専攻、分子生命機能科学専攻
- 〈工学研究科〉システムサイバネティクス専攻、社会基盤環境工学専攻、機械物理工学専攻

お問い合わせ先: 082-424-6152 ホームページ: <http://www.taoyaka.hiroshima-u.ac.jp/>

- 〈教育学研究科〉文化教育開発専攻
- 〈生物圏科学研究科〉環境循環系制御学専攻
- 【国内外連携・協力大学等】 3大学
- テキサス大学オースティン校リンドンジョンソン公共政策大学院/インド工科大学デリー校/インド経営大学院大学アーメダバード校

- 【連携・協力企業等】
- 企業5、官公庁3、国際機関1、独立行政法人1、NGO1、その他1
- 中国新聞社/マイクロンメモリジャパン/バイタルリード/スマートセンシス/計測リサーチコンサルタント/グラミンジャクティ/ネパール代替エネルギー促進庁/地域変動に関する分析・研究・研修システム(START)/ICLEI東南アジア地域事務所/島根県中山間地域研究センター/国際協力機構中国国際センター/経済産業省中国経済産業局





# グローバル生存学大学院連携プログラム

Inter-Graduate School Program for Sustainable Development and Survivable Societies

- 1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれる人材
- 2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・知恵によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

## 【学位記の内容】

各研究科の博士号学位記に「グローバル生存学大学院連携プログラム」の修了を付記  
ただし、情報学研究科の場合は、博士(総合学術)の学位を授与

## 地球社会の安全・安心に貢献する 週団地による実践的学際科学

グローバル生存学大学院連携プログラムは、京都大学の9つの研究科と3つの研究所が連携し、安全・安心分野の新たな学際領域である「グローバル生存学 (GSS: Global Survivability Studies)」を開拓し、タフなグローバルリーダーを育成する、5年一貫性の博士課程教育プログラムです。現代の地球社会の安全・安心を脅かす、巨大自然災害、突発的人為災害・事故、環境劣化・感染症等の地域環境変動、食料安全保障といった危険事象や社会不安に対し、専門的実力、人間的魅力、社会的俯瞰力を備えた、集団智による現実問題への挑戦を行える、将来のリーダーたるべき人材を育成することを目指しています。

## 肉厚のT型人材の育成

こうした人材を育成するため、本プログラムでは異分野の学生、教員が様々な側面  
で交流を図ることを重視しています。  
その1つは多様な学修を可能にするカリキュラム設計にあり、学生は所属研究科での学術研究と並行して、プログラムが定



新入生を前に学生会の案内をする学生役員

める各種の実習系科目の履修が求められます(図1)。多分野の知見を習得し、現実世界の課題と向き合うためフィールドに赴き、主体的に関係機関との研究を計画、実行する。そのような経験を通して専門分野の深化とともに広範な異分野の体験をもとに汎用力を広げ、実践的研究と研究に基づく実践のためのリーダーシップを養います。

もう1つは、月1回のホームルームでの学生主体の企画、グローバル生存学の諸問題について語り合うGSSサロン、学生によるプログラムへの提案・協力を可能とする学生会の組織、学生が集える学生ラウンジの開設、などを通して学生と教員、あるいは学生間の交流を図れる環境の構築です。年1回国際機関等の専門家からなる国際アドバイザーを招いての国際アドバイザー会議を開催して、国際的な学術的、

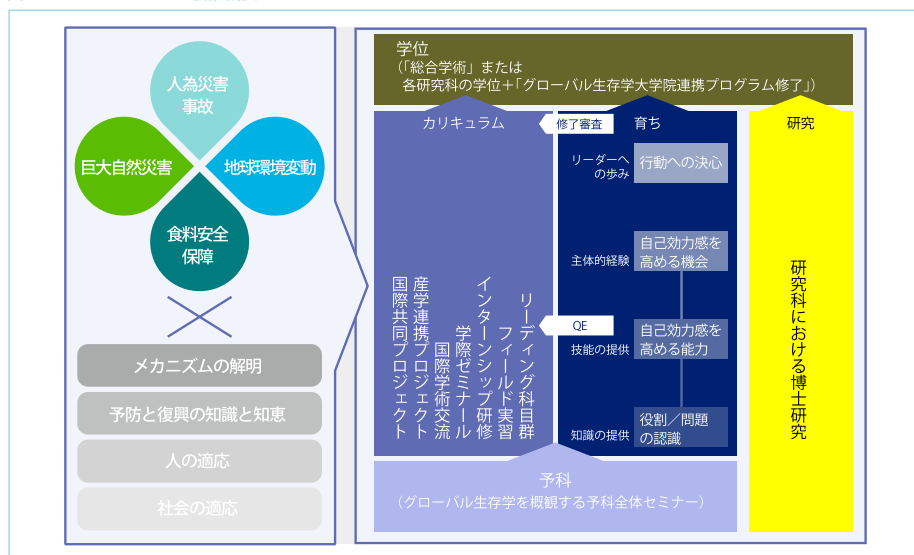


2015年度国際アドバイザー会議(テーマ:エネルギーと環境)にて

人的交流の機会も設けています。さらに、GSSfolioと名付けられたePortfolioシステムは、これらの学修の成果を記録し、振り返るフレームワークを提供しています。

こうした交流、集合智の活用を通じて、肉厚のT型人材の育成を目指しています。

図1 GSSプログラムの履修概要



グローバル生存学の枠組みに基づいて、安全安心領域のグローバルリーダーを育成する5年一貫のプログラム

## DATA

- 【学生募集人数】20名/年
- 【留学生・社会人の割合】34%・47%
- 【参画研究科・専攻等】9研究科・25専攻  
(教育学研究科) 教育学、臨床教育学  
(経済学研究科) 経済学  
(理学研究科) 地球惑星科学  
(医学研究科) 医学、社会健康医学系  
(工学研究科) 社会基盤工学、都市社会学、都市環境工学、建築学、機械理工学  
(農学研究科) 農学、森林科学、応用生命科学、応用

お問い合わせ先: 075-762-2163 ホームページ: <http://www.gss.sals.kyoto-u.ac.jp>

- 生物学、地域環境科学、生物資源経済学、食品生物学
- 〈アジア・アフリカ地域研究研究科〉東南アジア地域研究、アフリカ地域研究、グローバル地域研究
- 〈情報学研究科〉社会情報学、通信情報システム
- 地球環境学舎(地球環境学、環境マネジメント)、防災研究所、生存圏研究所、東南アジア研究所
- 【国内外連携・協力大学等】2大学、2機関  
シアクラ大学/国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)/ポハール計画・建築大学/国連環境計画

- 【連携・協力企業等】26機関  
JFEスチール/大和総研/IEインスティテュート/武田薬品工業/国立大学法人熊本大学社会文化科学研究科/アレスパートナーズ/福井県立大学経済学部/プライスウォーターハウスクーパース/ダイキン工業/東レ/パナソニック/三菱重工業/三菱電機/村田製作所/DMG森精機/帝人/大日本印刷/住友林業/サントリーホールディングス/日本電気/巴川製紙所/日本ゼオン/ローランド/小松製作所/ヤンマー/富士ゼロックス

# グローバル安全学 トップリーダー育成プログラム



Inter-Graduate School Doctoral Degree Program on Science for Global Safety

博士課程前期後期一貫教育による人材育成プログラムで、部局の枠を超えて文系・理系を含む学生（リーディング院生）集団で教育を行い、東日本大震災に代表されるグローバルデザスターから人命・社会・産業を守ることに貢献できるグローバル安全学リーダーの育成・輩出を目指します。

【学位記の内容】  
「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の修了を付記

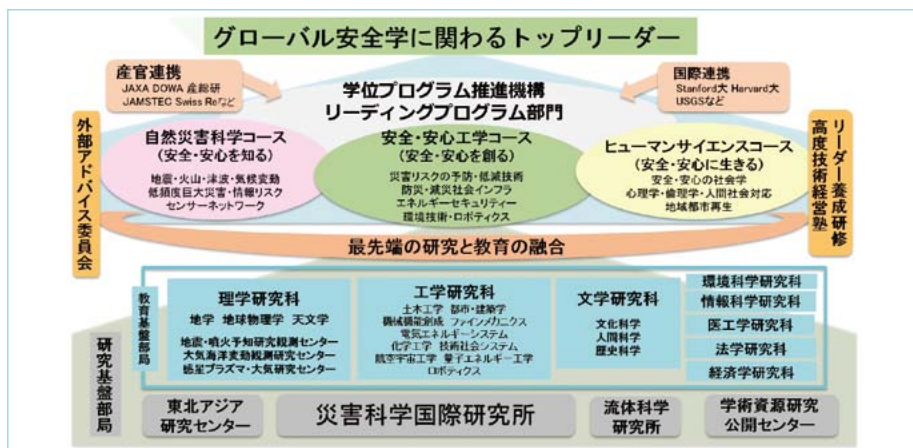
## 多様な部局が参加した 文理融合教育

一災害科学国際研究所が先導する教育研究  
東北地域に甚大な被害を与えた東日本大震災は、地理的・社会的にグローバルに波及した災害であり、その影響は甚大で長期にわたる時間スケールでの復興が必要であり、被災地域の社会基盤や産業基盤の本格回復には至っていません。さらには原子力発電所の再稼働を含めたエネルギー政策の大転換を議論せざるを得ない状況となっています。

本プログラムの特徴は、本学に新設された災害科学国際研究所が目指す「実践的防災学」に基づく学際的かつ先端的な教育研究を行うと共に、災害科学国際研究所、工学研究科、理学研究科、環境科学研究科、文学研究科、法学研究科、経済学研究科等が参画することにより、震災からの復興現場での活動や、世界的研究活動を通じて人材を育成することです。さらに人類社会共通の課題である気候変動や、原子力事故に代表される巨大システム事故への対応、世界的なエネルギーセキュリティ問題等の解決に貢献できる人材の育成に取組を展開していくことにあります。



専門知識と多様な分野への展開力と、リーダーとして必須の能力を持つ「金平糖型」人材を育成



12部局23専攻が参画した文理融合型教育によるグローバル安全学トップリーダーを育成

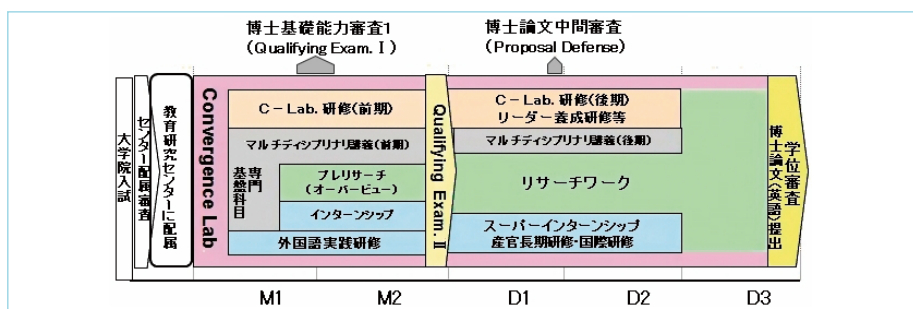
## 安全安心を「知る」「創る」「生きる」教育

### 一金平糖型人材の育成を目指して

本プログラムでは、科学・技術・人文社会科学の研究者が連携して教育を行い、「自然災害科学コース」「安全安心工学コース」「ヒューマンサイエンスコース」の3つのコースにおいて、金平糖型人材の育成を目指します。

●先鋭化された研究を通じた専門能力の核(コア)を有すると共に、多様な課題解決のための応用能力(シェル)を有する人材

- 課題設定と問題解決、研究開発、事業展開、グランドデザインなどの筋道を自ら設定して実践する能力を有する人材
- 事象を俯瞰して整理し、自身の考えを的確に相手に伝える能力を有する人材
- 国際舞台でリーダーシップを発揮できる資質を有する人材
- リーダーとしての倫理観と責任感を有する人材



グローバル安全学教育研究センターで研究科を超えて一体で修学

## DATA

【学生募集人数】20～30名/年  
 【留学生・社会人の割合】21%・0%  
 【参画研究科・専攻等】8研究科・23専攻  
 〈文学研究科〉文化科学、人間科学、歴史科学  
 〈法学研究科〉法政理論研究  
 〈経済学研究科〉経済経営学  
 〈理学研究科〉天文学、地球物理学、地学  
 〈工学研究科〉機械機能創成、ファインメカニクス、航空宇宙工学、量子エネルギー工学、電気エネルギーシステム、化学工学、土木工学、都市・建築学、

技術社会システム、ロボティクス  
 〈情報科学研究科〉応用情報科学、人間社会情報科学  
 〈環境科学研究科〉先進社会環境学、先端環境創成学  
 〈医工学研究科〉医工学

【国内外連携・協力大学等】1大学  
 スタンフォード大学  
 【連携・協力企業等】4機関  
 宇宙航空研究開発機構/同和ホールディングス/  
 米国地質調査所/宮城県教育委員会

お問い合わせ先: 022-795-4946 ホームページ: <http://g-safety.tohoku.ac.jp/>





# 災害看護グローバルリーダー養成プログラム

## Disaster Nursing Global Leader Degree Program

人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援でき、健康に生きるための政策提案に取り組み、グローバルな視点から安全・安心な社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる人材

### 【学位記の内容】

修了者には、博士(看護学)の学位に「Disaster Nursing Global Leader」を付記

※括弧内は共同実施機関

### 人間の安全保障を目指す 看護博士人材の育成

日本は大規模災害というと主に地震が挙げられますが、世界には戦争や紛争という人為災害や数ヶ月から年単位に及ぶ旱魃・洪水といった災害もあることを忘れてはいけません。DNGLのグローバルネットワークでは実習やインターンシップを通して、学生が国際機関から学ぶ機会を可能にします。学生に日本という枠を超えて、いかなる状況においても個人、家族、集団、地域、国が「その人らしく生きる」ことを可能にし支援するナースの輩出を目指しています。看護は対象の身体の問題に限らず、心理的社会的側面についても常に考慮し、全人的なケアを実践します。この看護の強みが、災害というあらゆる側面で影響を及ぼす事態において、発揮されることを目指します。

### 国公立の学際、災害看護を リードする5大学が共同

本プログラムは離れた5つの大学による共同教育課程であり、日々の講義は情報ネットワークを用いた遠隔授業が中心で、物理的に離れた教員や同級生が仮想の教室で双方向性を維持しつつダイナミック



第3回国連防災世界会議

に、授業だけではなく演習や実習が行われています。オフラインでは、5つの大学が持つ多領域にわたるグローバルネットワークを強みとして、教員だけでなく連携機関の災害のエキスパートが教育にあたっています。

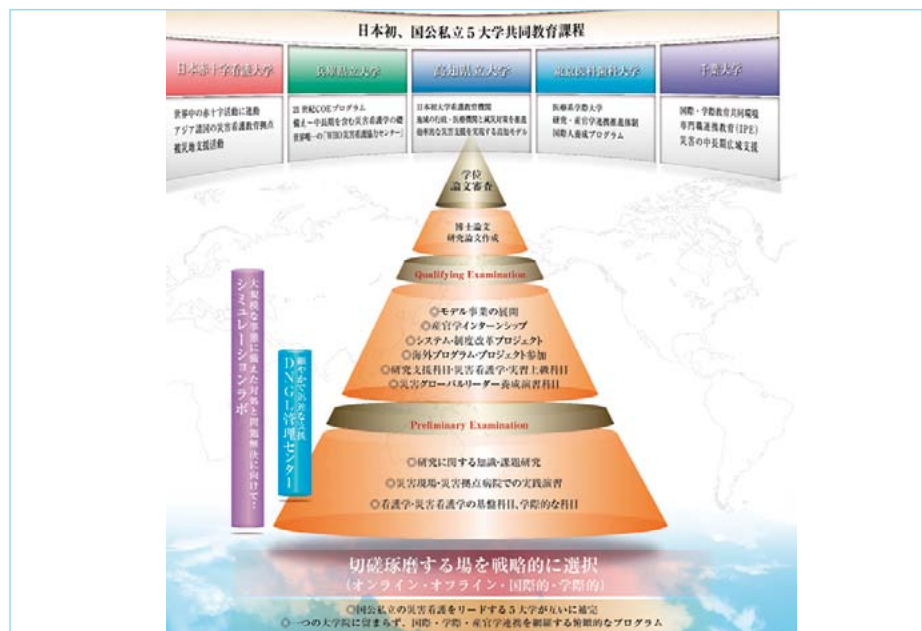
災害を研究テーマとして捉え、適した研究手法を倫理的配慮に基づき構築し、結果を導き出す人材の輩出を目指しています。研究の結果は政策のエビデンスとなるよう、対象の国や地域に還元されるまでを見据えて検討しています。研修やインターンシップで、東日本大震災を受けて危機感が高く活発に研究・事業展開がなされている46の学術、43の産官関係機関に還元し、更なる研究・事業の開発発展に貢献したいと考えています。このスピード感とダイナ



総合防災訓練への参加

ミズムで、DNGLという1学際グループとして、またDNGLに在籍する学生という個人として、今、起きている「次なる災害」への備えとして産業、官庁、学術機関に積極的に関わっていきます。

### グローバルリーダーを養成する教育環境



国内初の国公立5大学院による共同教育課程。それぞれの資源を結集し学際・国際・学術力を磨く。

お問い合わせ先: 088-847-8630 ホームページ: <http://www.dngl.jp/>

### DATA

【学生募集人数】10名/年  
【留学生・社会人の割合】4.8%・0%  
【参画研究科・専攻等】5研究科、5専攻  
高知県立大学(看護学研究科)共同災害看護学専攻、  
兵庫県立大学(看護学研究科)共同災害看護学専攻、  
東京医科歯科大学(保健衛生学研究科)共同災害看護学専攻、  
千葉大学(看護学研究科)共同災害看護学専攻、  
日本赤十字看護大学(看護学研究科)共同災害看護学専攻

【プログラムのための新研究科・新専攻の設置の有無】  
平成26年4月に高知県立大学看護学研究科共同災害看護学専攻、  
兵庫県立大学看護学研究科共同災害看護学専攻、  
東京医科歯科大学保健衛生学研究科共同災害看護学専攻、  
千葉大学看護学研究科共同災害看護学専攻、  
日本赤十字看護大学看護学研究科共同災害看護学専攻を新たに設置

【国内外連携・協力大学等】46大学  
カリフォルニア大学サンフランシスコ校/マイアミ大学/タイ赤十字看護大学/香港理工大学/ガジャマダ大学/サウスウェールズ大学/セイヨウキ大学  
【連携・協力企業等】43機関  
WHO西太平洋事務局/WHO神戸センター/国立病院機構災害医療センター/宮城県看護協会/レルダール/JICA/国際赤十字赤新月社連盟/スウェーデン災害医療教育研究センター

# フotonサイエンス・リーディング大学院



## Advanced Leading Graduate Course for Photon Science (ALPS)

東京大学大学院理学系研究科と工学系研究科が連携し、基礎科学の最先端研究の場を、最先端フotonサイエンスを横串として活用することによって、分野を超えた俯瞰力と知を活用する力を身につけ、世界を舞台として人類社会の持続的発展に貢献する博士人材を育成します。

### 【学位記の内容】

修了者には博士号学位記に「フotonサイエンス・リーディング大学院プログラム」の修了を付記

### 人類社会の課題解決を先導する国際的リーダーの育成

私達が育成したい人材は、既存の学術分野を超えた基礎科学力、俯瞰力、知を活用する力を身につけ、産・学・官の幅広い分野において、人類社会の持続的発展に貢献し、課題解決を先導する国際的リーダーです。

グローバル化が加速する中で、資源の枯渇、環境破壊、世界金融不安、貧困など、人類全体で取り組むべき課題が顕在化しています。これらの地球規模の課題の解決に挑むには、多様な人々が、分野を超えて知恵を出し合うことが欠かせません。これらの課題を私達が克服する過程で、人類全体の持続的発展に貢献する新しい知と技が日本から生み出されるはずで、私達は、そのような活動を率先する「知のプロフェッショナル」を育てたいと考えています。

### フotonサイエンスを舞台に分野を超えて切磋琢磨する

人類社会の課題解決を先導する人材の育成には、物事の本質を捉える知力を身に付けさせ、それを課題解決に向けて活用する技量を徹底的に鍛えることが必要です。

分野を超えた視点を身に付けさせるきっかけとして、私達は「フotonサイエンス」



コース生は先端光科学技術関連企業の出張講義・実験実習を通じ、企業における研究開発の考え方を学べます

を活用します。光科学は、近年発展が著しい先端科学技術分野であると共に、異なる学術分野を貫く基盤的・横断的学理をもつ分野です。世界の精鋭達と日々しのぎを削る最先端の基礎科学研究の現場は、論理的に課題の本質に迫り広い視点で問題解決の道を探る能力を鍛える場として最適です。

以下に示すように、既存の専攻や分野を超えて集まった学生が互いに切磋琢磨し、課題の本質を俯瞰的に捉え、その解決に向けて知を活用するという視点を身に付けることができる環境を整備しました。

- 1. 複数教員指導体制:** 指導教員に加え副指導教員がコース生を指導し、研究や将来のキャリアパスの相談に乗ります。
- 2. 充実したコースワーク:** 先端光科学技術関連企業23社の技術者による実験実習、海外の光科学技術関連の企業人による知の活用に焦点をあてた授業などを通じ、コース生は基礎科学を産業応用に結びつける視点を学べます。

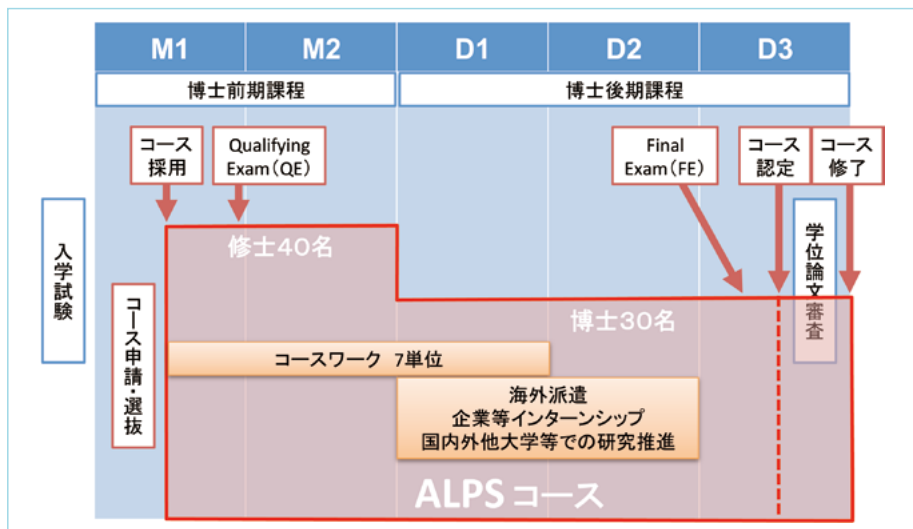


知の探求 - ノーベル物理学賞受賞者との討論 - 質疑応答はもちろん英語で行われます

**3. 学外活動の実践:** 海外の大学・研究機関への派遣、企業インターンシップ参加、国内外他大学等での共同研究のいずれかをコース生に必修として課し、大学の研究室外で、視野を広げる活動を実践します。

**4. 修士課程から博士課程までの一貫した支援:** コース生に十分な経済的支援を行い、優秀な学生が安心して博士課程に進学し、研究に専念できる環境を実現しています。

### ALPSプログラムの構成



### DATA

お問い合わせ先: 03-5841-4340 ホームページ: <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/current/ALPS>

【学生募集人数】40名/年  
 【留学生・社会人の割合】4%・0%  
 【参画研究科・専攻等】2研究科・6専攻  
 〈理学系研究科〉  
 物理学、化学、地球惑星科学、生物科学  
 〈工学系研究科〉  
 物理工学、電気系工学

【国内外連携・協力大学等】1機関  
 理化学研究所  
 【連携・協力企業等】企業1社・コンソーシアム1件  
 Lumentum LLC / CORAL (先端レーザー科学教育研究コンソーシアム: 光科学技術関連企業23社)



# 放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー育成プログラム



Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative) for Renaissance from Radiation Disaster

幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有した、国際的に活躍できるグローバルリーダー(フェニックスリーダー)の育成

【学位記の内容】  
「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」の修了を付記

## 英知を結集した分野横断的 フェニックスリーダー育成

広島大学は世界で最初の被爆地に誕生した総合大学であり、1945年以降多くの被ばく者の方々の治療はもとより環境調査研究や人文社会学的側面からも多くの英知を結集し、復興に貢献してきました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により生じた福島第一原子力発電所事故は福島県内や東北地方はもとより国内そして世界にも大きなショックを与え多くの混乱を招きました。このような事故は起ってはならないことですが、21世紀の社会では医療や産業での放射線利用や開発国での原子力開発は益々加速を続けています。その一方で、放射線の安全を担保するシステムの脆弱性が明らかになっています。さらに、近年の国際情勢の不安定化は核テロの脅威さえも生んでおり、大きなリスクであると言えますが、放射線災害が発生した場合に対応出来る人材育成は世界的にも立ち遅れている現状です。

この「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、広島大学の英知を結集し、幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で培われた判断力と行動力を有して復興を指導出来る、そしてそのリスクに対して予測・予防することが出来るグローバルリーダーである「フェニックスリーダー」を育成します。



短期フィールドワークの一部では南相馬市の仮設住宅を訪問し住民の方と意見交換しました

## フェニックスリーダーに 不可欠な3つのスキルを学修

プログラム入学生は、「放射線災害医療コース」「放射能環境保全コース」「放射能社会復興コース」から一つのコースを選択し、専門性の深化とともに、他のコースの授業科目も学修します。

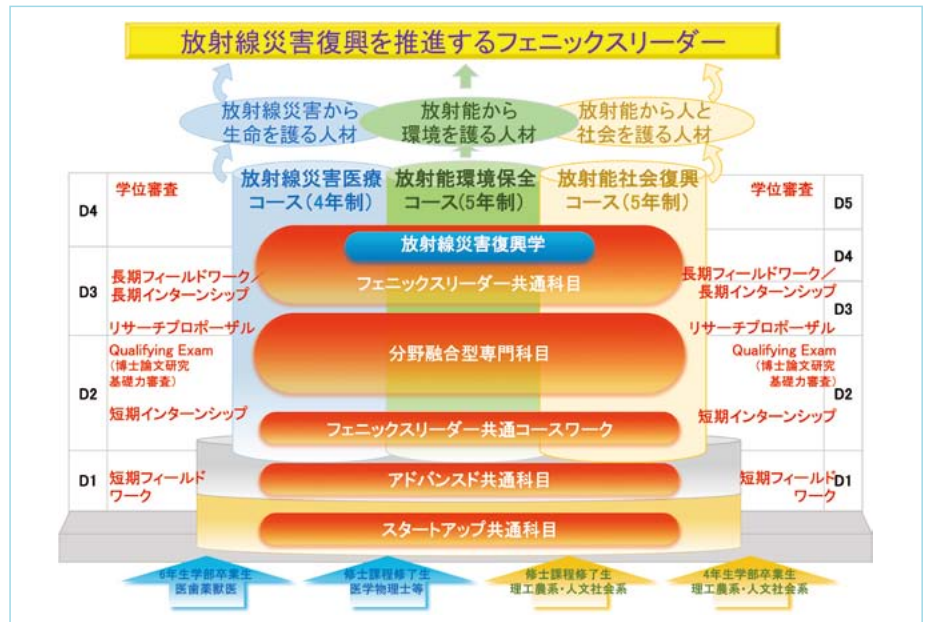
その理由は、放射線災害が生じるとその問題は被災地域のみならず世界規模な問題となり、その対応・復興には一つの専門性だけでは不可能であるためです。そこで、本プログラムでは、①分野を超えた知識基盤である「学際力」、②グローバルに対応できる「国際力」、③複雑に錯綜する現場において合意形成に導く「マネジメント力」の3つのスキルを磨きます。



IAEA(国際原子力機関)でインターンシップを行いました

このようなスキルを磨くために本プログラムでは、日々の授業科目での修学とともに、共通コースワーク、国内外でのフィールドワークやインターンシップ、及びグローバルフィールドビジット等を提供します。

カリキュラム概要



分野横断的知識基盤の確立とともに、インターンシップ・フィールドワークを実施し実践力を養います

### DATA

- 【学生募集人数】10名/年
- 【留学生・社会人の割合】55%・10%
- 【参画研究科・専攻等】8研究科・16専攻
- 〈総合科学研究科〉総合科学
- 〈文学研究科〉人文学
- 〈教育学研究科〉文化教育開発、教育人間科学
- 〈社会科学研究科〉マネジメント
- 〈理学研究科〉物理科学化学、数理分子生命理学、生物科学
- 〈医歯薬保健学研究科〉医歯薬学、保健学

お問い合わせ先: 082-424-4689 ホームページ: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/>

- 〈工学研究科〉機械システム工学、機械物理学、社会基盤環境工学
- 〈生物圏科学研究科〉生物機能開発学、環境循環系制御学
- 【国内外連携・協力大学等】4大学
- 福島大学/福島県立医科大学/東北大学/長崎大学
- 【連携・協力企業等】2研究機関
- 放射線医学総合研究所/放射線影響研究所



# フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム

## Leadership Development Program for Space Exploration and Research

「確固たる基礎力」と「高い専門性に立脚した俯瞰能力」をコアとし、「企画立案能力」「実践能力」「組織・マネジメント能力」「問題解決能力」「国際コミュニケーション能力」を兼ね備え、フロンティア「宇宙」利用拡大をもたらすイノベーションを牽引する国際的リーダー

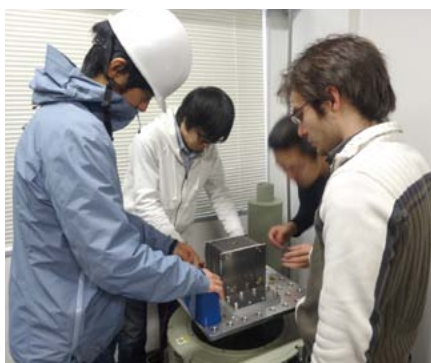
【学位記の内容】

「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」の修了を付記

### フロンティア「宇宙」利用拡大をもたらす国際的リーダー育成

宇宙は人類に残された最大のフロンティアであり、人類のさらなる進歩への鍵を握ります。過酷な宇宙環境への挑戦は最先端技術の開発を促し、新たな産業のイノベーションをもたらす源泉として無限の可能性を秘めています。宇宙の開拓は、理学・工学の様々な要素を必要とする総合科学であり、ひとつの分野に閉じこもらず、様々な角度からのアプローチを有機的に組み合わせなければ達成する事が出来ません。そのため、高い専門性と広い知識を持ちグローバルな舞台で競えるリーダーがフロンティア「宇宙」の開拓に切望されています。

本プログラムでは、航空宇宙産業の中核である中部地区にある名古屋大学の長をを活かし、「宇宙」を基軸として最先端の見聞や技術を俯瞰的視野で統合し産業にも活かす国際的リーダーを次世代産業に広く輩出し、そのネットワークを通して市民生活の向上に寄与する宇宙利用の拡大につなげることを目指しています。



ChubuSat実践プログラムにおいて学生が設計した検出器構造を振動試験

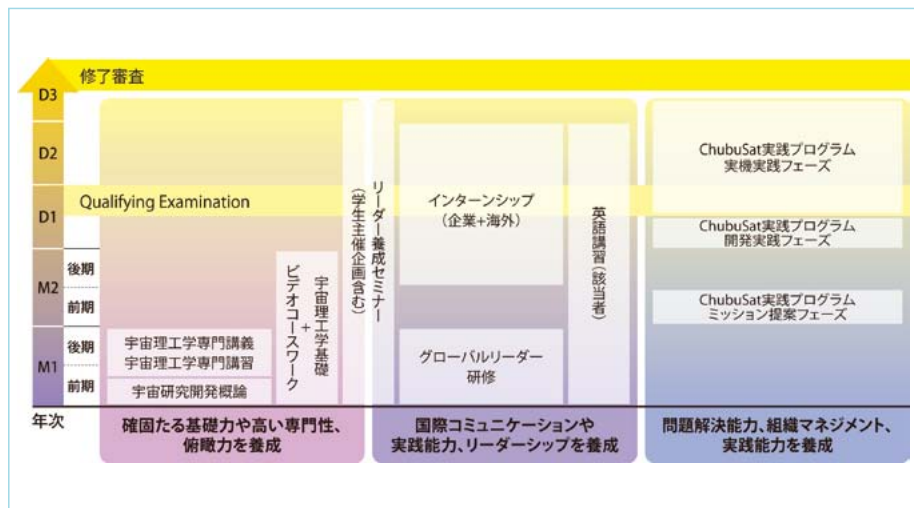
### 学生の自主性・実践を重視したリーダー養成

本プログラムでは、学生が自分自身の経験を通して成長することを重視しており、その中核となるChubuSat実践プログラムでは、名古屋大学が主導する産学協同人工衛星プロジェクトであるChubuSat衛星を活用した宇宙開拓・宇宙利用を実践します。そこでは、実験をあらかじめ決められた手順通りにこなすのではなく、異なる分野に所属する5-8名のチームで学生が主体となって切磋琢磨し、失敗を乗り越えながらプロジェクトを計画・推進することにより、異分野間の学生の交流を進めるとともに「企画立案能力」「組織マネジメント能力」「問題解決能力」など、広く産業の発展をリードするのに必要な能力を養成します。ChubuSat実践プログラムでは、学生が提案したミッションがChubuSat-2に採用され、成果を挙げています。



学生主催企画においてグループワークで社会的課題を議論

その他、3ヶ月程度のインターンシップでは、海外研究機関でのグローバルな研究環境を体験することで「国際コミュニケーション能力」を実践・養成し、企業での実践的研究環境を体験することで視野を広げ「実践能力」を身につけるとともにキャリアパスにつなげます。



宇宙開拓リーダーに必要な素養・専門性と実践を重視した教育体系

DATA

お問い合わせ先: 052-789-2930 ホームページ: <http://www.frontier.phys.nagoya-u.ac.jp/index.html>

【学生募集人数】20~30名/年  
【留学生・社会人の割合】19%・00%  
【参画研究科・専攻等】2研究科・2専攻  
〈理学研究科〉素粒子宇宙物理学  
〈工学研究科〉航空宇宙工学

【国内外連携・協力大学等】8大学  
オックスフォード大学/オハイオ州立大学/カリフォルニア大学バークレー校/コロラド大学/ソウル大学/ミシガン大学/ミシガン州立大学/レスター大学

【連携・協力企業等】海外企業1、国内企業5  
三菱重工業・航空宇宙事業本部/三菱電機・先端技術総合研究所/NEC・宇宙システム事業部/ボーイング/トヨタ自動車/浜松ホトニクス



# リーディング理工学博士プログラム



Leading Graduate Program in Science and Engineering, Waseda University

5年一貫制の新専攻における科学技術に関する卓越した専門能力、国際的な舞台でリーダーとして活躍できる広い視野と実行力を身に付けるためのカリキュラムを通じ、複数の課題が複雑に絡むエネルギーなど、地球規模の問題の解決に資する理工系博士人材を育成しています。

【学位記の内容】

博士号学位記に「先進理工学専攻」の修了を付記

## エネルギー・ネクストリーダーの養成

本プログラムでは、複数分野の課題が複雑に絡むエネルギー問題など、グローバルイシューの解決に挑戦できる理工系博士人材を育成するため、「3つの力」を人材養成の柱としています。

次々世代のエネルギー科学・技術の基盤となる物理、化学、電気・電子、生命科学などを横断する学問領域を「エネルギーの理工学」としてくり、育成する人材の専門軸としています。エネルギーの理工学という視点で現象を学び、自身が基盤とする専門に帰結させて複合的な研究にも柔軟に対応できる「専門力」を育てます。

また理工系の学生向けにカスタマイズした本学政治学研究所ジャーナリズムコース(Jコース)や経営デザイン専攻スーパーテクノロジーオフィサーコース(STOコース)、産・官・政界の一流人材やノーベル賞受賞者の講義やエネルギー関連機関での実地演習を設置しました。文理融合と産学官連携により、社会と研究を繋ぐ情報受発信力、社会要請や事業化を睨んで研究の道筋を構築できる「俯瞰力」を養います。

さらに科学技術英語の実践的な強化を経てから、海外研究機関との共同研究や企業インターンシップに各3ヵ月派遣します。専門分野や文化背景などを超えて多様な人



座学・対話型演習・現場演習を組み合わせ、エネルギー・ネクスト教育を体系化(写真はベトナムラドン油田)

材と信頼関係を築き、チームを巻き込みながら新しい領域を開拓するための「進取力」を培います。

この「3つの力」を、早稲田大学の強みであるエネルギー・新材料・デバイス研究への参画を通じ協奏的に鍛錬することで、将来エネルギー・ネクストを担う人材: エネルギー・ネクストリーダーを産業界を中心に輩出します。

## 5年一貫制博士課程の新専攻に 教員・学生が集結

この分野横断・複合的かつワンランク上の博士課程教育を柔軟かつ持続的に推進するため、平成26年4月に5年一貫制の先進理工学専攻を新設しました。修士号を出さない本専攻には、将来のキャリアパスを見据えた意欲高い学生が集い、また様々な専攻と企業、海外大学から教員11名が移籍しました。QE通過後の学生の指導に



学生の挑戦を促進する科目「イノベーションチャレンジ」を設置、国際コンテストで2年連続入賞(H27年銅賞)

は産業界から登用したコンサルティング教員も加わります。学術誌への論文投稿を求めるQEや、外国人副査やコンサルティング教員も参画する英語による学位審査で、国際水準の質を担保します。この5年一貫制フレームワークによる学位取得者が、質の高い博士人材、高度産業人材の証として巣立つよう、教員が一丸となって取り組んでいます。

### エネルギーネクスト教育の概念図



5年一貫制大学院教育の新専攻において、専門力・俯瞰力・進取力の養成により、エネルギーネクストリーダーを育成する

### DATA

【学生募集人数】15名/年  
【留学生・社会人の割合】2%・0%  
【参画研究科・専攻等】2研究科・9専攻  
(先進理工学研究科) 先進理工学専攻、物理学及応用物理学専攻、化学・生命化学専攻、応用化学専攻、生命医科学専攻、電気・情報生命専攻、ナノ理工学専攻、生命理工学専攻、  
(情報生産システム研究科) 情報生産システム工学専攻

【プログラムのための新研究科・新専攻の設置の有無】平成26年4月、先進理工学研究科に5年一貫制「先進理工学専攻」を新たに設置  
【国内外連携・協力大学等】2大学  
スタンフォード大学/モナシュ大学  
【連携・協力企業等】44社、2国際機関  
JXエネルギー/東芝/ブリヂストン/アメリカ/P&G/BASF/シーメンス/日立/三菱化学/東レ/パナソニック/三菱商事/国際原子力機関/経済協力開発機構原子力機関、他

お問い合わせ先: 03-5286-8263 ホームページ: <http://www.leading-en.sci.waseda.ac.jp/>

# 活力ある超高齢社会を共創する グローバル・リーダー養成プログラム



## Graduate Program in Gerontology: Global Leadership Initiative for an Age-Friendly Society

《活力ある超高齢社会を共創するための能力》、即ち《自身の専門分野に関する専門的学術研究能力》、《高齢社会問題に関する幅広い俯瞰力》、《多分野の専門家チームを主導して問題解決に取り組む実践的課題解決能力》の3つを兼ね備えたグローバルなリーダーシップを発揮できる人材を養成します。

【学位記の内容】  
「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」の修了を付記

### 俯瞰力+専門的研究能力+実践的課題解決能力

本プログラムでは、本学9研究科29専攻・1機構の教員や連携企業・自治体及び海外の大学等のサポートの下で選り抜かれた大学院生が、①講義を通じて高齢社会問題に関する俯瞰的総合的な知識を獲得し、②多様な分野の専門家とチームを組んで課題解決に取り組むフィールド演習や、国際的チームワーク力を育成するグローバル演習によって、現実社会における課題解決能力を養い、③高齢社会の実態や真のニーズを反映した独創的で質の高い博士研究を成し遂げることを通じ、《活力ある超高齢社会を共創するための能力》、即ち《自身の専門分野に関する専門的学術研究能力》、《高齢社会問題に関する幅広い俯瞰力》、《多分野の専門家チームを主導して問題解決に取り組む実践的課題解決能力》の3つを兼ね備えた、グローバルなリーダーシップを発揮できる人材の養成を目指しています。

### 東京大学の総力をあげて超高齢社会問題に取り組む

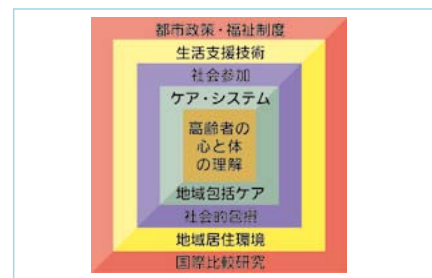
日本は、2030年には人口の1/3が65歳以上の「高齢者」、1/5が75歳以上の「後



9研究科による分野横断型のプログラム

期高齢者」という、超高齢社会になることが予想されています。また、韓国やシンガポール、中国も2040年～60年には超高齢社会になるといわれています。こうした中で日本は、高齢化最先進国として世界に先駆けて、活力ある超高齢社会のあり方を構想し実現する責務があるといえます。

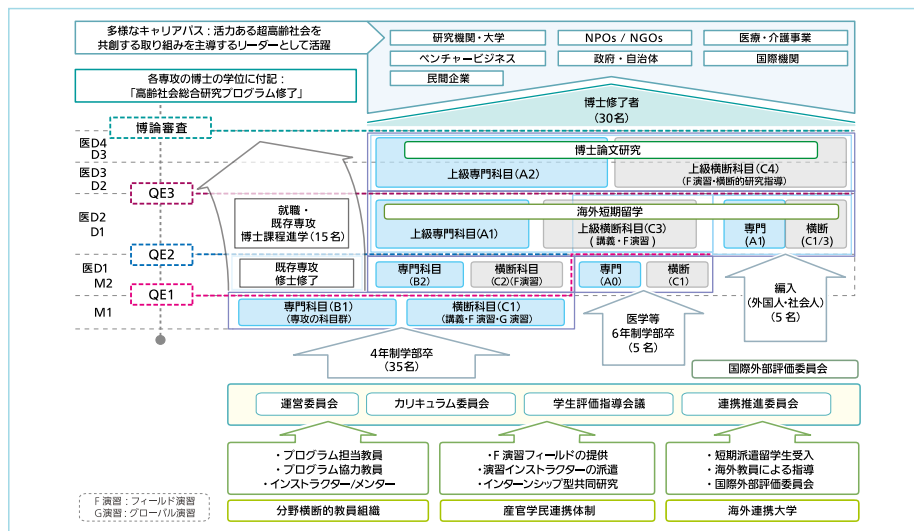
高齢者が活力を持って地域社会の中で生活できる期間をより長く、要介護期間や施設収容の期間を最小化することで、高齢者自身のQoL(生活の質)を高めると同時に、家族と社会の負担を軽減し、社会の活力を維持向上する——このような社会を実現するためには、都市や地域での市民生活を支える生活環境基盤の3領域、即ち、①【い:医】ケア・サポート・システム(医療・看護・介護・みまもり・保育・子育て・福祉等の統合的システム) ②【しよく:食・職】社会的サポート・システム(社会的包摂・社会参加・コミュニティ活動等の促進体制) ③【じゅう:住】物的空間的生活環境シ



高齢社会総合研究学の多重構造

テム(居住環境・歩行環境・交通環境・街並環境・商業環境・コミュニティ交流施設・オープンスペース)をリデザインしていく必要があります。世界に先行するジェロントロジー教育研究の拠点である東京大学高齢社会総合研究機構では、東京大学の総力を結集し、こうした新しい社会システムを構想し実現する取り組みを主導していくグローバルな人材を育成します。

### プログラムの構成・概要



お問い合わせ先: 03-5841-1662 ホームページ: <http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>

### DATA

- 【学生募集人数】35名/年
- 【留学生・社会人の割合】12%・17%
- 【参画研究科・専攻等】9研究科・29専攻・1機構  
《高齢社会総合研究機構》《工学系研究科》社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、化学システム工学専攻、先端学際工学専攻(人文社会系研究科) 社会文化研究専攻(教育学研究科) 総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻(法学政治学研究科) 総合法政専攻(総合文化研究科) 広域科学専攻(農学生命科学研究科) 生

産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻(医学系研究科) 社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻(新領域創成科学研究科) 先端エネルギー工学専攻、メディカル情報生命専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻(情報理工学系研究科) 知能機械情報学専攻

- 【国内外連携・協力大学等】5機関  
ミシガン大学ジェロントロジー研究機構/オックスフォード大学高齢社会研究所/ミズーリ大学法科大学院/シンガポール国立大学医学大学院/ソウル大学ジェロントロジー・トランスレーショナル研究センター
- 【連携・協力企業等】5社  
セコム/ニッセイ基礎研究所/大和ハウス工業/ベネッセスタイルケア/ユーティット



# 「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成



Fostering long-term creativity and innovation with science and technology disciplines based on Ochanomizu spirit  
“Migakazuba” in the next generation of global leaders

## 企業で即戦力となる理工系女性リーダーの育成

### 【学位記の内容】

博士(理学グローバルリーダー)、博士(工学グローバルリーダー)、博士(学術グローバルリーダー)

### イノベーションを創出し続ける女性博士人材の育成

少子高齢化や人口減少が進むなか、「女性の活躍は成長戦略の中核をなす」と言われています。また、2020年までに指導的立場に立つ女性の比率を30%に高めるといふ国の数値目標が掲げられています。このように、女性リーダーの育成は日本の産業界において急務であり、本プログラムではこの課題に対して本学のもつ140年の歴史と経験、そして校歌に謳われた「みがかずば」の精神に基づき、女性リーダーの育成を目指しています。

上記の目標達成に向けて、本プロジェクトは産学官との緊密な連携関係の構築を目指しています。IHI、東芝、ニコン、IBM、エーザイ、本田技研、ベネッセ、ブリヂストン、ソニーなどの産業界や、総研大、理研、情報研、統数研、分子研、高エネ研、産総研などの研究機関からもプログラム担当を迎え、産学官の緊密な連携の下に学位プログラムを実施することで、博士人材の社会への進出の促進を目指しています。そして、上記を含む連携機関において研究室ローテーションを行い、知見を広めるとともに研究力の向上を図っています。



グローバル研修の実施

### 企業内のプロジェクトチームをモデル化したPBTSの実施

PBTS(Project-Based Team Study)は、大学院生がプロジェクトを立案し、問題解決に挑むお茶大オリジナルの新しい学修プログラムです。PBTSは、教員が与える課題解決型学習法であるPBL(Project-Based Learning)を、課題設定からその解決・統括運営をも学生が主体的に行う学習法として理工系女性リーダー教育へと昇華させたもので、異文化に対応する力、体系的に問題を解決する力、プロジェクトマネジメント力等の習得を目指すプログラムです。

PBTSの試みの背景には、博士課程教育で問題化している「一般社会で役立つ人材が育ちにくい」といった課題や、研究の閉鎖性を乗り越えるといった目的があります。すなわち本プログラムでは、「独創的アイデアは異質性が葛藤する中から生

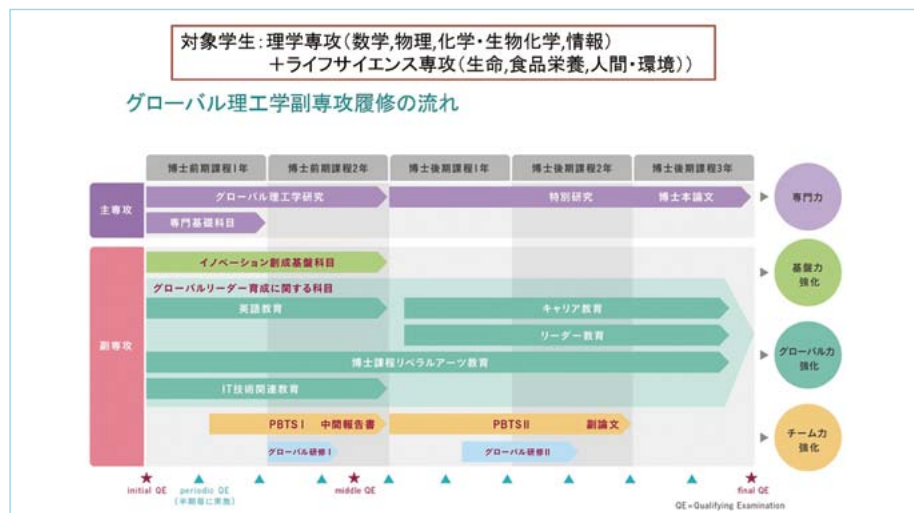


他大学リーディングプロジェクトとの交流会

まれ、これが問題解決に至る最善の道である」と考え、このPBTS教育モデルを提案しました。

PBTSの活動は学内にとどまらず、履修生は各人の研究目的に応じて学外の研究機関等での3ヶ月以上の研修を積んでいます。平成27年度には、本プロジェクトの履修生を、オックスフォード大学、バージニア工科大学、シドニー工科大学、ニューヨーク大学、ストラスブール大学などに派遣しました。

### 本学位プログラムのカリキュラム



主専攻での専門力に加えて、副専攻では基盤力(折衝力、チーム力)を強化し、企業等で即戦力として活躍できる人材を育成

## DATA

【学生募集人数】15名/年  
【留学生・社会人の割合】12%・18%  
【参画研究科・専攻等】1研究科・2専攻  
(人間科学文化創成研究科)  
ライフサイエンス専攻、理学専攻

【連携・協力企業等】3海外研究機関、9社  
IHI/東芝/ニコン/IBM/エーザイ/本田技研/  
ベネッセ/ブリヂストン/ソニー

お問い合わせ先: 03-5978-5775 ホームページ: <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leading/>